

西 邑 楽 高 等 学 校 学 校 評 価 一 覧 表 ② (平成22年度版)

(様式2)

羅 針 盤		達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題	
評 価 対 象	評 価 項 目	具 体 的 数 値 項 目		①				②
I 特色ある学校づくりを推進する。	1 学力向上を根幹として、各学科(普通科、スポーツ科、芸術科)の目標達成に相応しい教育課程を編成・実施する。	・習熟度別授業(数学・英語)に85%以上の生徒が満足している。 ・専門教科の授業に85%以上の生徒が満足している。 ・専門学科の特色ある取組を85%の生徒・保護者が評価している。		B A	B A	B A	・外部アンケートの結果、少人数授業、習熟度別授業に満足している生徒、保護者は80%を超えている。 ・専門学科の授業は生徒のほとんどの生徒が専門性の向上のために役に立っていると答えており、保護者の満足度も高い。	・各学科の目標達成にふさわしい教育課程を編成するとともに、少人数授業、習熟度別授業の編成、内容をさらに工夫する。 ・専門学科の授業取り組みについては今年度も生徒、保護者の満足度が高かったが、さらに工夫をし、向上を目指す。
	2 全職員が学校課題について共通理解を持ち、組織的な指導を展開する。	・各職員が「羅針盤」を指針として自己目標を設定し、教育活動の改善に努めている。		C	B	B	中間申告時に面談を行って各自の職務推進状況を確認し必要な場合各自の自己目標の修正を行った。	・「評価項目」について協議を十分に行い学校全体での取り組みにする。 「評価項目」の策定を自己申告書作成前に行い羅針盤の一層の周知徹底を図る。
II 生徒に健全で意欲的な学校生活を送らせる。	3 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	・登校時指導を中心に、あいさつ・服装・遅刻防止に関する指導を進め、生徒の状況がおおむね良好である。特に遅刻指導該当生徒が年間45名以下である。		B	A	A	遅刻防止に向けて登校時指導や朝の読書を全職員で取り組んできた結果、月3回以上の遅刻指導該当者は前年度の半数以下になっている。挨拶もよくなっており、今後も地道に取り組んでいく。	・遅刻防止は成果あり。服装については、特に男子のズボンの裾、女子のスカート丈をきちんとさせたい。挨拶は、職員も率先してお願いしたい。 登校時指導や集会時の集合やマナーについての指導、さらに日常の授業における生徒指導を全職員で取り組み、生徒の規範意識の向上を図る。
	4 交通安全の意識を喚起し交通ルール・マナーの向上を図る。	・自転車点検や事故防止啓発活動を通じて、過失事故や大事故をゼロにする。		B	A	A	1年間を通じて重大事故はないが、幸い軽傷で終わった事故は数件あるので、交通安全教室や自転車点検などを通じて、より一層の交通安全意識の高揚を図る。	・幸いにして入院に到る事故は無し。自転車運転については、一時停止の徹底を図る必要有り学期に1回は自転車点検の実施が必要。総合評価はBが妥当か。 交通安全指導の徹底を図るために自転車の整備点検などを通じて自分の身を守る指導に取り組む必要がある。
	5 生徒会行事等の内容充実を図り、生徒の自主性を伸ばし達成感を得させる。	・文化祭や球技大会等の生徒会行事に満足している生徒が85%以上である。		A	A	A	生徒総会を通じて生徒会行事を精選し、行った。ペットボトルキャップ集めをはじめとし、生徒が主体的に発案・実行した行事が増えた。	・生徒は主体的に行動する機会を通して成長していくもので、文化祭等の行事を今後も創意工夫あるものにして欲しい。 今年度の方針を継承し、生徒総会の意見をより多く吸い上げられるように、行事の精選も行っていく。
	6 部活動の振興に努め、活気ある学校づくりを進める。	・部活動に加入している生徒が、70%以上であり、充実していると感じている生徒が70%以上である。		A	A	A	生徒会行事として部活動紹介を行うなど、新入部員の勧誘に努めるとともに、情報部と連携してWebを利用して外部への情報発信を行った。	・入学後の早い時期に充実した高校生活を送る方策を考えさせて欲しい。無為に過ごしている生徒が心配である。 さらなる部活動加入者増加に向けて、今年度の方針をより徹底していく。
III 生徒に確かな学力・豊かな心を身につけさせる。	7 双方向の授業への取組を進める。また生徒一人一人に対応した指導を行う。	・学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。		C	B	B	全体の2/3の生徒が授業に充実感を感じていると答えている。さらに多くの生徒が達成感、満足感をもてるよう授業を工夫する。	・教員相互の授業参観と授業研究をさらに進め、良い授業のイメージを職員が共有化できるようにお願いしたい。 校長の授業参観、教員相互の授業参観と授業研究を効果的に実施し、継続的な授業改善に努める。
	8 授業時間を確保する。また授業と家庭学習を結び基礎的な学力を定着させる。	・生徒の家庭での1日の平均学習時間は、1・2年生で80分以上である。 ・実用英語技能検定の合格者が、2級10名、準2級60名以上である。		D	D	D	課題をきちんとこなしている生徒が7割いる反面、家庭学習を80分以上している生徒は2割にとどまる。課題の内容、量、出し方に工夫が必要である。英検は2級3名、準2級43名合格した。	・学年の国数英担当者による週末課題の計画的実施と期末試験後にも学年の試験を実施するなど、まずは教員側の工夫が必要である。来年度の重点課題である。 課題の取り組み方の指導を充実させ、家庭学習の習慣化を図る。基礎基本の定着のための方策と課題の選定を工夫する。1、2回英検を積極的に受験するよう指導する。
	9 継続的な読書を通じて知的・感性的に自らを鍛える習慣を育てる。	・「朝の読書」を含め、生徒が1年間に12冊以上の本を読んでいる。		B	B	B	様々な機会を捉えて読書にまつわる話題、行事等を活用して生徒の読書環境を整えるよう努めた。	・目標に近づいており評価できる。ぜひ、内容を分析し、読解力向上に繋がるものにしてもらえたい。 読書の質を向上させるための具体的な方策を検討する場を、学年・他分掌等と連携して設ける。
IV 生徒に進路目標を達成させる。	10 自らの進路への関心・意欲を高揚し、学習意欲の向上を図る。	・二者面談等により、職業や適性、進路実現のための課題を生徒自身に考えさせ、意識できた生徒が1・2年生で70%以上である。		B	B	B	アンケートの結果、約80%の生徒が進路を考えさせる際に面談や進路学習、進路行事が役に立っていると答えており、今年1年の進路計画がある程度生徒の意識向上につながったと思われる。	・年5回の面談週間に効果を上げているようだ。進路実現への課題の一つとして家庭学習時間を増やすことにも役立てたい。 進路行事を精選し、3年間を見通した進路指導の充実を図る。適切な職業観を持たせ、将来の職業選択につながるようなキャリア教育を推進していく。
	11 進路指導に関する情報を共有し3年間を見通した体系的な指導を行う。	・進路を考えるのに進路関係の行事が大いに役立っていると思う生徒が80%以上である。		B	B	B	進路講演会や年2回発行の進路情報等で最新の進路動向を伝えることによって、生徒の進路実現への意欲を喚起するとともに保護者への情報提供に努めた。	・体験的な行事(職業研究見学会や先輩とのトーク)が効果的である。行事後は、生徒のまとめや発表をさせ、互いに交流する場を設定したい。 進路実現のための学力をつけさせる。各教科と連携しながら、学力向上のための対策を図る。
V 生徒の心身の健康と安全に留意する。	12 生徒が自らの健康の保持増進に努めるなど自己管理に向けた指導を行う。	・熱中症やインフルエンザ等の予防の情報提供を適切に行う。また、生徒の健康診断に基づく受診率が30%以上である。		C	B	B	生徒の健康診断に基づく受診率が現在の調査で約40%である。	・生徒自身の目や歯の健康管理が不十分と言わざるを得ない。家庭への協力の働きかけも必要である。 歯の大切さを生徒に再確認させる機会を作り、受診率を高めたい。
	13 心身の健康問題を抱える生徒の早期発見と適切な指導や対応に努める。	・生徒の悩み等の相談を受け入れやすい体制づくりを進め、十分なサポートができていく。		A	A	A	さまざまな角度から生徒の悩み等の情報が得られているかどうか、組織的なサポートができるよう努める。	・概ね良好だが、相談窓口をもっと生徒に周知したい。また、職員のカウンセリングに関する研修も必要と思われる。 不登校気味の生徒に対する早期の対応に努める。
	14 学びの場としての教室等の環境の整備・美化に努める。	・校内の安全点検や美化点検を月に1回実施し、良好である。		B	B	B	月1回校内の安全点検を組織的に実施した。毎日の清掃はもちろん計画的に大掃除を実施し環境美化に努めた。	・大掃除やワックス掛け等円滑に実施できた。部室周辺の美化やゴミの分別も徹底したい。 校庭を整備する。
VI 開かれた学校・信頼される学校づくりを進める。	15 保護者との共通理解を促進する。また、地域社会との連携を図る。	・PTA総会、専門学科ガイダンスに積極的に参加している保護者が、前者が50%以上、後者が、80%以上である。		B	B	B	PTA行事への参加率は例年並みで向上していない。行事の意義や魅力が保護者に伝わるよう広報を工夫する必要がある。	・PTA行事に年1回以上参加してもらう工夫ができると良いと思う。 PTA総会参加率50%以上。PTA研修視察・親善球技大会への参加者の増加。
	16 Webページやオープンスクール等により学校の活動を公開し、外部の意見を取り入れる。	・学校のWebページを週1回以上更新している。オープンスクールで「学校の様子がわかった」と80%以上の参加者が答えている。		B	A	A	昨年までと比較してホームページの更新頻度を上げることができた。また、サイトの全面リニューアルも行った。	・ホームページの時機を得た更新ができている。引き続き、保護者や中学生、地域の人々に本校の活動がよく分かる内容を掲載して欲しい。 記事の収集をもっと広範囲求めていく。ホームページの内容を本校の保護者、受験する中学生向けにもさらに充実させていく。
	17 校内研修等を通じて職員の使命感の自覚、指導力の向上等に努め、信頼に応える。	・服務規律に関する啓発を職員会議等で年10回以上行っている。授業でのICT活用やカウンセリングに関する職員研修を実施する。		B	B	B	服務規律の啓発は「服務規律だより」の発行を含め、10回以上行っている。現在まで大きな事故等は起こっていない。教員相互による授業研修を各教科ごとに実施できた。成果が徐々に出るものと考えている。	・「服務規律だより」は目標とする回数発行ができた。AED研修の実施は、よかった。引き続き信頼される学校づくりに学校で取り組んで欲しい。 教員相互による授業研修をさらに継続し指導力の向上を図る。また、職員による他校研修も実施したい。服務規律の啓発も継続していく。

